



ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL80 平成29年10月



キープ・オン・ゴーイング！
Keep on going!
～前に進み続けよう！～

日野原重明先生の理念を次世代に伝える

日野原重明先生は、今年7月18日、105歳でお亡くなりになりました。私は、平成9年10月、日野原先生と奇跡的な出会いがあり、その後、とてもかわいがっていただきました。そして、日野原先生は、お亡くなりになるまで医療法人真誠会の名誉理事長として私たちを励ましてくださいました。

といっても「がんばりなさい」という励ましの言葉ではなく、人生はどうあるべきかを説かれました。

私が学んだことは、命の大切さと、人のために尽くすことです。もし私が日野原先生に出会っていなかったら、米子市河崎の「米子ホスピタウン」以上には成長しなかったとおもいます。「天空に大きな円を描き、その弧になりなさい」と、人生の最期まで人のため社会のために貢献することを諭されました。

私が73歳の現在、自分の命の長さには不相応な新しい事業を大きく展開できたのは、日野原先生に教えていただいた勇気によるものです。

私は、60歳のときに日野原先生を研究して『日野原重明先生リビング・ヒストリー』という本を出版しました。

平成24年米子で行われた講演会のあとで、「新老人の会鳥取支部」の会がありました。その席で先生は、「小田先生は、私が生んだ卵です」とおっしゃいました。これは人生で感じたもっとも感動的な言葉でした。

日野原先生は確かにお亡くなりになりました。しかし、たくさんの教えは、そのお姿と共に私の心の中で永遠に生きているのです。



社会福祉法人 真誠会
医療法人 真誠会
理事長 小田 貢

●「3つの「V」をもつ」

第一のVは、**ビジョン**(大きな夢を見ること)。第二のVは、**ベンチャー**(冒険心・開拓心)。第三のVは、**ビクトリー**(勝利)。

●寿命とは、わたしたちに あたえられた時間のことです。

●時間にいのちをふきこめば その時間が生きてきます。

●「日野原先生が設立された『新老人の会』3つのモットー」

1. 愛し愛されること 2. 創(はじ)めること 3. 耐えること

●「ひとつの使命」子どもたちに平和と愛の大切さを伝えること

私は、日野原先生の弟子として、日野原先生の思想、理念を伝え、また社会に貢献したいと思っております。



新しい医師を迎えて

社会福祉法人 医療法人 真誠会

理事長 小田 貢

真誠会の医師は、約 30 年間ほとんど私一人が主体となって診療を行ってきました。その間、数人の立派な先生もおられました。年齢的に次世代を任せる年齢ではなく、また単に医療技術ではなく、精神性の高さや社会性など地域医療、高齢者医療に必要な能力、センスがあり、将来的には経営も任せられる医師となると簡単には見つかりませんでした。

ましてや、そのような若い医師の殆どは病院指向であり、真誠会のようなクリニックにはなかなか目が向かないというのが現実でした。

しかし、今年 10 月より、田原医師（44 歳）、春日医師（39 歳）が本院へ着任してくれました。実はこの二人の医師は、従兄弟であり、それに加えて事務方の若手リーダーである前田常務理事とも従兄弟なのです。要するに、前田、田原、春日の三人は従兄弟同士です。

私としては、この三人が仲良く、そして互いに切磋琢磨して、平成の三本の矢、真誠会の三本の矢として真誠会の次世代を背負ってくれることを願っております。

田原医師、春日医師ともに、医師としてはこれからまだまだ勉強が必要ですが、医師として一番大切な、優しさをもっているのも、患者さんの信頼を得られる、そして次世代の真誠会を任すことができる医師に育ってくれることを願っております。

また、11 月には院長代理、統括施設長として津山第一病院前院長・鳥取大学医学部特任教授の河崎先生（65 歳）に来ていただきます。河崎先生は非常に仕事熱心で、患者さんに対しても献身的な医療をされることと、スタッフからの人気も高く、とても優しい先生です。田原医師、春日医師の若い医師に対して、指導者的な役割を担っていただけると期待しております。

真誠会は、来年 9 月、開設 30 周年を前に、次世代の若い医師が真誠会に来て貰ったことはまさに日野原先生からの奇跡のプレゼントでした。

在宅医療真誠会 本格的在宅医療 の展開

真誠会は開業当時より在宅医療も行っていました。が、外来患者さんが多いため本格的な在宅医療は出来ていませんでした。

この度、田原医師、春日医師が真誠会に勤務してくれるようになり、また幸運なことに両医師とも地域医療に対して積極的な気持ちがあり、真誠会が本格的に在宅医療を展開することになりました。

真誠会は今までセントラルクリニックの医療を

中心に、老人保健施設、老人福祉施設、ケアハウス、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、訪問看護、訪問介護と幅広く医療福祉サービスを包括ケアとして提供してきましたが、全体のサービスに比較して在宅医療は相対的に非常にささやかでした。

二人の若い医師の活動で、真誠会のこれまでの在宅医療の 4～5 倍の規模で、他の医療福祉サービスとバランスの良いサービス体系が確立されると思います。



新任医師挨拶



真誠会セントラルクリニック
統括施設長 院長代理
医学博士(呼吸器内科)
かわさき ゆうじ
河崎 雄司

この11月から真誠会にお世話になることになりました内科の河崎雄司と申します。専門は呼吸器病学です。これまでは岡山県津山市にあります津山第一病院に勤務し、高齢の方の肺炎などをみさせていただいております。高齢者肺炎では抗菌薬治療を行っても全身状態そのものが悪いため予後不良となる場合が多く、肺炎予防が重要とされています。肺炎予防には肺炎球菌ワクチンもありますが、その効果は十分でなく、他に高齢者肺炎の予防に役立つものはないのかと悩んでおりました。

このたび小田先生が長年苦勞され作られました真誠会で働ける機会をいただきました。小田先生の医療や医療に対する考え方などを学びながら、私の宿題であります高齢の方の肺炎予防に携っていければと思っております。頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



真誠会セントラルクリニック
たはら たかし
医師 田原 誉敏

2017年10月から真誠会でお世話になっております田原誉敏と申します。9月まで鳥取大学病院放射線科で勤務しておりました。専門領域は放射線治療で癌全般を専門としておりました。根治治療から緩和治療まで幅広い癌の治療を担当しておりました。

良性疾患、慢性疾患は全く経験がなく、真誠会での勤務は新しいことが押し寄せてくる感覚があり、緊張の日々であります。小田貢先生のご指導の元、研修医に戻ったつもりで1から研鑽に励む所存でございます。

また、外科内科全般に深い知識と経験を持つ春日先生が同時期に真誠会に合流されたのも、私にとっては僥倖であり、彼からも多くの指導を仰げることを楽しみにしております。小田先生がいつも仰っておられる「患者さんの全てを診る」ことが出来るような医師像に少しでも近づけたらと思っております。

私の母は、真誠会で介護福祉士として働かせて頂いておりました。障害のある兄と、弟の私を女手一つで育ててあげてくれました。私が医師になれたのは、真誠会で母が働かせて頂いていたからであり、私は真誠会によって育てられた、医師にして貰ったと言っても過言ではございません。真誠会は今まで勤務したどの施設よりも愛着と親近感を持った施設であります。

益々の真誠会発展の一助と成れるよう精一杯努力してまいります。何卒よろしくお願い致します。



真誠会セントラルクリニック
かすが まさたか
医師 春日 正隆

はじめまして9月21日より真誠会セントラルクリニックに着任しました春日正隆(かすがまさたか)と申します。現在39歳で生まれは島根県大田市で、京都にて消化器外科医として10年以上総合病院に勤務し、救急・手術に明け暮れ、そしてここ数年は内科医として勉強させていただき、訪問診療にも携わって参りました。どのような状況であれ、患者さんの立場であればどのように思われるかを常に考え、分かりやすく丁寧な診療をさせて頂くよう心掛けております。医師になってからまだ短い期間ではありますが、色々な方との出会いがありました。そして患者さんから沢山のことを教わり学ばせて頂きました。患者さんごとに考え方や生活の仕方は様々であり、そのことを理解した上で患者さんはもちろんご家族にも寄り添う医療ができれば理想的です。

真誠会のあらゆる患者さん、利用者さんのお力に少しでもなれば嬉しく思います。一日でも早く皆さんに信頼していただけるよう、そして真誠会にかかって良かったと思って頂けるよう精進して参ります。

最後になりますが、私は坊主頭の上、体も大きく(縦にも横にもですが)、その上声まで低いのでぱっと見はとっつきにくく怖いイメージをもたれるかもしれませんが、お話をさせていただくことが本当に大好きなので、気軽に話しかけていただければ幸いです。

まだまだ若輩者ではございますが、寄り添う医療を実現できるようこれから一生懸命頑張っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

市民フォーラム 第7回 認知症 サミット 鳥取 in 米子 2017

9月24日、市民フォーラム 第7回認知症サミット鳥取 in 米子 2017 が、米子市文化ホール（メインホール）で開催され、約 500 名の来場者がありました。

今回の認知症サミットでは、認知症の患者さんあるいはご家族が日常的に直面している問題に対して具体的な問題解決の糸口について、明日からでも取り組むべき事に関して実用的なフォーラムを企画しました。

基調講演は、南部町国民健康保険西伯病院の高田照男先生による、「認知症医療の現状」、シンポジウムでは、「認知症に対する家族の対応」、「高齢者の行方不明や捜索について」、「高齢ドライバーの事故注意、免許証更新の最新情報」、「認知症になる前に相続手続きについて」、「(家族に迷惑をかけないための) 認知症保険について」など、様々な問題について専門化が具体的、わかりやすく助言していただきました。会場の参加者との意見交換も活発に行われ、盛会に終わりました。



▲オープニングでは、ゴスペルオーブの歌と、ボランティアスタッフ「希望」と、NPO法人がいなネットによる手話で「虹」を合唱

▼ビデオレターにて開会挨拶



平井伸治鳥取県知事



鳥取大学医学部保健学科
教授 浦上克哉先生



認知症サミット鳥取
西部地区会長・実行委員長
医療法人・社会福祉法人
真誠会
理事長 小田 貢

ごあいさつ

認知症が将来、日本の大きな社会問題になると言われ始めて10数年が経ちました。

そして現実には認知症の患者さんは年々増加しています。

市民の皆さんも認知症に関する知識もかなり高くなり、日常的な会話にも認知症という言葉が多く聞かれますし、自分も認知症になるのではないかと心配の言葉を口にされる方も多くなりました。

その点で過去10数年間のマスコミなどを通しての啓発活動はある程度、順調に行っているとおもいます。

さて、最近の社会的話題は、実際に認知症の患者さんが増え、多くの認知症の方が家庭で生活しておられることから、家族が認知症の家族の方の対応を知らないため、家庭内でトラブルが起きたり、介護疲れが問題になったりします。

また徘徊や、車の運転ミスなどの問題もあります。

その他、認知症になった方の遺産手続きはどのようにしたらよいか、というようなことが他人事ではなく、どの家庭でも起こりうる現在、これらの問題の対応、予防、解決に関して、の知識を持つておくことが重要になってきました。

認知症に関する知識獲得という第一段階から、認知症の方と一緒に生活するという実践偏、対応偏の第二段階に入ったとおもいます。

今回のシンポジウムは、そのような実践偏に関してそれぞれの専門家から助言をいただくものです。



シンポジウム

認知症に対する家族の対応について

介護老人福祉施設皆生ピースポート
看護師長（鳥取県認知症介護指導者）
佐平 登志美

認知症を疑う症状に気付いた段階では「軽度認知症障害」の場合が多く、この時期に治療を開始することで、認知症の予防や発症を遅らせることができます。早期に医療機関に相談することが大事です。

認知症の初期は、何かしらおかしいと本人も強い不安を感じています。本当に苦しいのは本人であることを家族は受け止めてください。家族がとまどう症状も出てきますが、どんな行動でも、本人が一生懸命考えた結果だということを知ってほしいです。何を望んでいるかを考え、優しく対応してください。

悪い対応は、「せかす」「しかる」「諭す」「間違いを正す」「命令口調」です。介護者のいらいらを察知し、介護拒否や症状の悪化につながる場合があります。認知症の症状は人それぞれです。介護する人は一人で抱え込まず、困ったことがあれば専門家へ相談してみてください。

座長

力合わせ安心できる社会を

医療法人・社会福祉法人
真誠会理事 長 **小田 貢氏**

認知症については、誰もが不安感をお持ちだと思います。認知症でも暮らしやすい地域をつくるには、多くの人が関わり、力を合わせる事が大事です。来場の皆さんが意見を一致させ、それぞれの場所で、意見を交換しながら安心できる社会をつくらなければならないと思います。

座長

社会に「共助」の土壌を

鳥取看護大学・
鳥取短期大学理事 長 **山田修平氏**

出演者

来場者アンケート

来場者数 約500名
回答者数 約300名

「認知症医療の現状」

講師 南部町国民健康保険西伯病院
認知症疾患医療センター長 **高田 照男氏**

座長 鳥取看護大学・鳥取短期大学 理事長 **山田 修平氏**
医療法人・社会福祉法人真誠会 理事長 **小田 貢氏**

「認知症に対する家族の対応について」

医療法人真誠会 介護老人保健施設ゆうとびあ
看護師長（鳥取県認知症介護指導者） **佐平登志美氏**

「高齢者の徘徊について」

米子市役所 福祉保健部次長 兼 長寿社会課長 **奥谷 剛氏**

「道路交通法改正による認知症対策について」

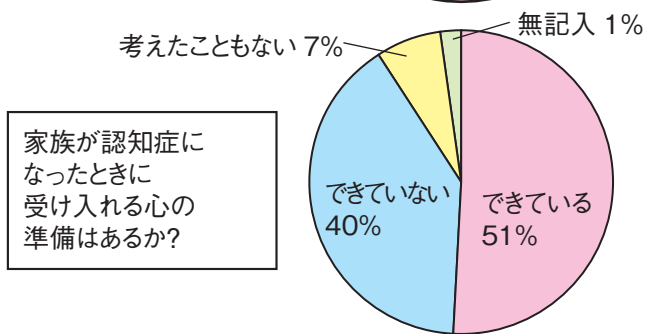
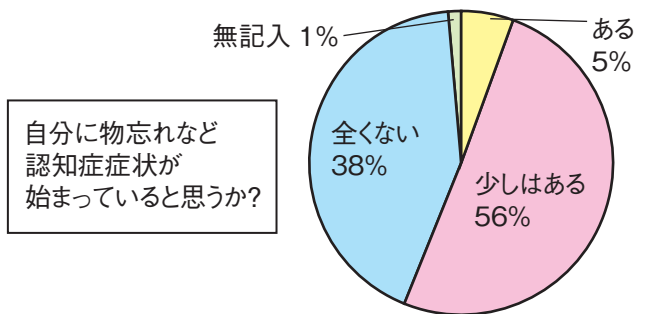
鳥取県警察本部 交通部 運転免許課 管理官 **山崎 隆志氏**

「認知症の遺産相続について」

安田・林・水田法律事務所 弁護士 **水田 敦士氏**

「認知症治療保険について」

太陽生命保険株式会社 営業企画部 部長 **原 耕平氏**



新施設まもなくオープン!!

皆生ピースポート・ローズガーデン／ホスピタウンレジデンス



皆生ピースポートは米子市初の地域密着型ユニットケアの介護老人福祉施設です。全室個室対応で起床、食事、入浴、就寝などの生活を、今までの暮らし方を基本としながらサポートします。併設の皆生ローズガーデンはリハビリ強化型のデイサービスで、身体機能に偏らず、活動や参加の生活機能全般を向上させるため、バランスのとれたリハビリテーションを行います。ご自宅で介護をしながら働く家族を支える事業所として、利用される方々が元気で暮らせるようお手伝いを致します。

平成29年11月15日開所予定



- 地域密着型介護老人福祉施設
皆生ピースポート (29 床+短期 1 床)
☎ 080-5611-3358 担当：遠藤
- 通所介護 **皆生ローズガーデン** (定員 20 名)
リハビリ強化型 ※将来定員 35 名予定
☎ 080-1634-6535 担当：永井

平成29年12月中旬開所予定



- サービス付き高齢者向け住宅
ホスピタウンレジデンス (60 室)
☎ 0859-36-8170

真誠会ホスピタウンレジデンスは病院と同じ敷地内にあり、60 歳以上の单身または夫婦世帯に安心して居住いただけます。毎日の食事や見守り支援・生活相談といった標準サービスに加え、真誠会セントラルクリニックや介護保険サービス事業所が隣接しているため、必要に応じ医療・介護サービスを受けることができるサービス付き高齢者向け住宅です。

そして、チャペルがついたリゾートホテルのような豪華さを兼ね揃えています。



福米支え愛センター 5月オープンしました

平成 29 年 5 月に「福米支え愛センター」をオープンしました。地域の方々との交流サロンの開催、地域の皆さんの交流が進むよう、自治会と支援団体をつなぐお手伝いをしていきます。個展や展覧会等も開催しています。



お問合せ電話番号 (0859-46-0111)

小規模多機能型居宅介護 浜の絆 開所式を迎えて

浜の絆の職員は、開所前となる7月10日～15日の5日間、真誠会大山研修センターにて「開所前研修」を行いました。この大山研修では真誠会の理念を基に、浜の絆でのケアのあり方や方向性を職員全体で考えたり、自分たち一人ひとりの強み・弱みを理解し合うことによるメンバーシップの構築、地域との連携について先輩職員から学び、実践に向けての話し合いを行ったりと、内容の濃い5日間でした。この5日間それぞれが現場を離れ、大山という環境の中で研修に集中する事で、非常に効果的なチームビルディング（仲間が主体的に自分らしさ、多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら一丸となって共通のゴールを達成しようとチャレンジする、そうした組織をつくるための取り組み）が出来たと感じています。



そして小規模多機能型居宅介護浜の絆は平成29年8月17日に開所式を開催いたしました。開所式では夜見の寺子屋サロンの皆様による華やかな踊りを披露していただき、とても賑やかで明るい開所式となりました。また、沢山の地域の方々に足を運んでいただき、職員一同「地域と共に」という想いをより一層強めることができました。



今後とも地域の皆様と共に歩んでいける事業所を目指して、日々精進していきたく思います。

浜の絆 地域交流スペース

小規模多機能型居宅介護 浜の絆には「地域交流スペース」を併設しています。

様々な用途でご自由にご利用ください。

夏休みには地元の小学生と一緒に竹とんぼづくりをしました。9月末には、弓ヶ浜小学校の児童及び保護者の方が参加し、天体観測を行いました。

今後も様々な催しを企画しております♪

地域のボランティアの方々の活躍の場としても好評です！



竹とんぼ
づくり



天体観測

浜の絆 地域交流スペースのご紹介



小規模多機能型居宅介護 浜の絆には「地域交流スペース」を併設しています。

- ・お茶を飲みながらの交流の場として
- ・学校帰りの子供たちが宿題をする
- ・地域のボランティアの方々の活躍の場として

様々な用途でご自由にご利用いただくことが出来る場所です。

《これまでの活用例》

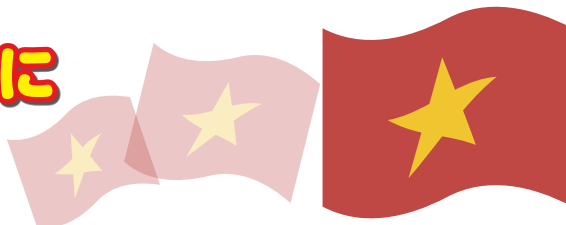
- ・オレンジカフェ
- ・宿題教室・工作教室
- ・ボランティアの活動発表
- ・地域の話し合い
- ・イベントの打ち合わせ

今後はさらなる活用を企画しております。



お問い合わせ電話番号 (0859-36-8360)

ベトナム視察研修に参加して



医療法人真誠会
常務理事
前田 寿浩

将来的に日本全体の労働人口が減少していく中で、外国人を雇用する必要性が高まっていくことを考え、9月にベトナム視察研修に参加させて頂きました。

この研修では、日本語学校やベトナム人の若者(日本への介護派遣候補生)と交流する機会を得ることができました。特に印象深かったのは、候補生が1日10時間の日本語の勉強を日課とし、日本への派遣期間中には子供や親の死に目にも会えない覚悟を持って来ている姿でありました。自らの人生をかけて挑戦しているというベトナムの若者の姿勢から私たち日本の若者が学ぶべきことは、たくさんあると感じました。しかしながら、外国人の職場への受入は想像以上に難しく、特に、言語の違い、国民性の違い等に起因する職場での不協和音など、解決すべき課題がたくさんあることを実感しました。

私たちは、単に働き手として外国の人を捉えるのではなく超高齢先進国の使命として、私たちの介護を伝えていくことを決して忘れてはならないと、視察研修の終わりに一番に感じました。



教室に掲げられている看板
「努力しない者に成功はない」



日本語を勉強するベトナムの若者たち



ベトナムの街並み

海外の福祉を学ぶ



平成29年度地域課題対応人材育成事業
「地域コアリーダープログラム」10月にドイツへ行ってきます!

真誠会セントラルクリニック
訪問リハビリテーション
事業所長
岡田 健吾

内閣府の事業である、平成 29 年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」高齢者分野に応募し、募集定員9名のうち一人に選ばれ、参加させていただくことになりました。

今年の2月より内閣府で選考会があり、理事長・専務をはじめ、先輩方のご支援もあり、選ばれることができました。たくさんの方々のご尽力をいただき受けることができ感謝しております。

この度、高齢者分野ではドイツに派遣されることになりました。ドイツは、日本が介護保険制度を参考にした国であり、高齢者を取り巻く地域における支援団体・ボランティア活動も活発に行われております。

私はセラピストとして、高齢者が地域に参加できる機会と場を提供する架け橋となりたいと日頃より思っております。その思いを実現するために、先進国ドイツの制度や支援団体の仕組み・役割を学び吸収し、地域と高齢者を繋げる架け橋となれるよう今後の活動に活かしていきたいと思っております。

平成29年度オールジャパンケアコンテスト

(平成29年10月7日)

優秀賞

オールジャパンケアコンテストは、年に1回開催され、全国各地から集まった介護士が高齢者ケアの技術を競い合うコンテストです。真誠会マイスターチャレンジコンテストで優秀賞を受賞した職員がオールジャパンケアコンテストに出場します。今年は、「口腔ケア」部門で頭本利恵さん（介護老人保健施設弓浜ゆうとぴあ）が優秀賞を受賞しました。

真誠会マイスターチャレンジ コンテスト開催!!



平成 29 年 9 月 10 日、第 3 回真誠会マイスターチャレンジコンテストを開催しました。マイスター（一つの分野に精通したプロフェッショナル）を目指して、職員同士で切磋琢磨して介護技術を競い合っております。出場者は、「食事」「排泄」「口腔ケア」「認知症」の4部門に分かれて技術を披露し合い、審査を受けます。出場した職員達は、真剣な眼差しで練習に励み、コンテスト当日には普段皆様と関わる中で培った、丁寧で優しさのある技術を披露しました。

全国老健協会個人表彰の部にて表彰

第 28 回全国介護老人保健施設大会 愛媛 in 松山が 7 月 26 日から 28 日の 3 日間、開催されました。そこで、医療法人・社会福祉法人 小田貢 理事長（介護老人保健施設ゆうとぴあ）が、平成 29 年度公益社団法人全国老人保健施設協会表彰の部にて個人表彰を受賞しました。



真誠会 障害者雇用優良事業所として表彰される

医療法人真誠会は、障がい者の雇用を積極的に行っていることが評価され、独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構から『平成29年度障害者雇用優良事業所・理事長努力賞』を受賞いたしました。

表彰式は、9月15日ゆうとぴあ広場において、機構の鳥取支部長より小田副理事長へ表彰状と記念品が授与されました。

医療法人真誠会は、平成 29 年 8 月末現在で 6 名の障がい者を雇用。実雇用率は 3.74% で民間企業の全国平均の約 2 倍となっています。医療法人真誠会では、これからも障がい者が働きやすい職場作りを目指し、積極的に障がい者を雇用していきます。





辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

ちょっとパリまで

職員 3 名と家内、それとボクの 5 人で、ちょっとパリまで行ってきました。5 年ぶりのパリだったのですが、テロ対策のため街の雰囲気はかなり変わっていて、少しばかり驚きでした。どこに行っても、それこそデパートに行ってもセキュリティチェックがあったり、武装した兵士が巡回していたりして、テロにかなり神経使っているのがピンピンと伝わって来ました。そのおかげか以前よく目についたスリらしき人の姿が見えず、これはこれで良かったです。それだけテロの脅威があっても、相変わらずパリには世界中からの観光客で一杯でした。やっぱり、パリは観光で成り立っているのを実感しました。今のパリ市民はナポレオンやダヴィンチに感謝しないとイケないですね。

それと今回の旅の目玉はモン・サン＝ミシェルでした。一度そこには行ったことがありましたが、その時はツアーだったからイマイチつまらなかったのが今回は鉄道とバスを乗り継いで自力で行ってみました。バスの車窓からは、どこまでも続く農地とのんびりくつろぐ牛や羊の群れ、そして石造りのシンプルな家などが見られて、こんな景色を眺めるとどこか落ち着きますし、フランスはやっぱり農業国だなと思ってしまいます。パリの街は華やかで洗練されていてまるでテーマパークみたいで、それはそれでいいのですが、フランスの田舎の景色もいいもんです。次はどこにしようかな。



いえはら歯科
院長 家原 猛

2017 夏～秋

今年の夏は暑かった。例年にも増して猛暑日が続いた。お蔭ですいか長いもマラソで食べた西瓜もおいしかったし、人気の新甘泉やピオーネも糖度たっぷりとても美味しい。

5 月の連休は、幸運にも屋久島に行くことができた。初日は登山口の下見と島一周のドライブ。2 日目はお約束通りの雨中の宮之浦岳の登山。巨石が点在する不思議な山頂でした。3 日目は白谷雲水峡からトロッコ道を通って縄文杉の往復。苔むすもののけの世界や巨大で買録ある樹齢 1000 年を超えるたくさんの屋久杉に出会えました。8 月は待望の劔岳に行ってきました。ここ 3 年連続の立山です。室堂から雷鳥沢、雷鳥坂を上がり御前小舎で休憩、そして劔岳に最も近い山小屋の剣山荘で一泊。翌早朝少雨の中、出発。一服劔、前劔を経て、難所と言われる平蔵のかしらやカニの縦ばいを無事クリアして劔岳山頂にたどり着きました。(帰りはカニの横ばい) 霧中視界があまり良くなかったおかげで、その高度感をあまり感じなかったことが幸いしました。花いっぱい青空に白い雲の夏山劔は、最高でした。

そして、この 10 月は日本体育協会公認スポーツデンティストを目指して新たなチャレンジに取り組みたいと思っています。スポーツドクターの歯科版です。人生 80 年から 100 年といわれる時代になってきました。長寿社会から福寿社会、健康寿命の伸延、元気で明るく楽しく過ごすため、しっかり体を動かしながら、摂るべき栄養はしっかり摂って、趣味なども生かして社会参加・社会貢献もできるよう、そして良いお手本にもなれるよう。特にしっかり噛める、しっかり食べる、私の立場で見識を深め、お役に立ちたいと考えています。最近言われる介護の入り口としての「サルコペニア」(筋肉減少症)や「フレイル」(虚脱)予防の秘策など探してみたいと思っています。



ウェディングドレス贈呈式 & お披露目会

7月6日に、ウェディングドレスボランティアの坂本嘉代子様よりドレス 20 着を寄贈して頂き、贈呈式とお披露目会を行いました。

職員 2 名がウェディングドレスを着て、結婚式のように男性職員のエスコートで入場。

フラワーシャワーの花嫁姿を見て、孫の結婚式を想いだされ涙する方や、「きれいだな」「こんな服着てみたかった」と声があがり、すてきなドレスに目が輝きうっとりされていました。

今後はこのドレスを活かしてさらに多くの方に喜んでいただけるイベントを企画していきたいと思ひます。



ウェディングボランティア
坂本嘉代子様 (寄贈者)

お化粧ボランティア
吉田民子様



Happy Halloween!!

米子中央ホスピタウン

真誠会セントラルローズガーデンでは、地域交流として、向かいにある ZOO キッズ幼稚園の園児と保護者、先生とハロウィンパーティーを開催しました。園児の格好がとても可愛いくて思わず笑顔が溢れてしまいます。



生活支援隊 中古福祉用具の取り扱い開始しました

生活支援隊では、古物商許可申請を行い、平成 29 年 7 月 1 日より「福祉用具・介護用品等の中古品買取り及び販売事業」を開始しました。

利用者の方から不要になった福祉用具等を買取り、福祉用具専門相談員が再販します。また、大手福祉用具会社と連携し、利用者の方が要望される中古の福祉用具を日本全国から探し販売します。



私たちがお伺いします！
お気軽にお問い合わせ
ください

個人及び施設等で「新品だと価格が・・・」と思われる方、弊社が自信を持って価格と品質を兼ね備えた中古品を販売しますので、お気軽にお問い合わせください。まだ始まったばかりの事業ですが、既に数件の販売実績や問い合わせがあり、更なる事業展開を期しています。

今後も新規事業について企画立案実行し、新たな保険外サービス事業に積極的にチャレンジしていきます。

崎津活性化プロジェクト

崎津夢農園

～野菜作り 夢作り～

弓浜脳活性クラブ
若竹庵

今年の 4 月より崎津地区の方のご好意で畑をお借りし、地域の有志の方と一緒に畑を耕し 6 月 22 日に開園式を迎えることができました。小田理事長より「崎津夢農園」と命名され、畑には大きな看板も付き、開園式でサツマイモの苗植えを行い、10 月 5 日にサツマイモの収穫祭を行いました。地域、崎津保育園園児、障がい者、利用者総勢 60 名以上の方が集まりました。芋掘りを行ったあとは、芋汁やサツマイモおにぎりで収穫を祝いました。

今後も地域の方に支えて頂きながら夢ある農園として色々なイベントを企画していきたいです。



和田と綿を絡めた大変ゴロの良いネーミング。平成 22 年春、真誠会の小田先生から和田で綿作りを始めようと提案を頂きました。昔、この地一帯で盛んに栽培されていた伯州綿作りを再現することは、高齢者の記憶を蘇らせ脳の活性化に繋がり、認知症予防の効果があると力説されて以来 8 年目を迎え、様々な効果を生み出しています。住民が中心となり綿作りプロジェクトを立ち上げ、地元保育園や小学校と継続的に綿関連のイベントを実施しています。今では、町内はもとより、市内、境港まで広がっています。また、市内にある身体者就業支援事業所 NP

綿油を皆さんに配ります



法人「おりもんや」(理事長:小前澄子さん)とのコラボレーションもその一つです。先日小前さんから黄金色に輝く『実綿油(じつめんゆ)』を頂き、早速、小瓶に分けて綿プロジェクトのメンバーにサプライズプレゼントをしました。我が家では、サラダや炒め物にかけたりして、暫し高級感漂う風味を楽しみました。

第11回 外浜ホスピタウン 地域交流ふる里まつり

平成 29 年 10 月 14 日に、地域交流ふる里まつりを開催しました。今年で 11 回目を迎え、地域の皆さんの熱気で曇り空も吹き飛んでいきました!



和田荒神こども太鼓
てオープニング



くじ引きでは何が
当たったかなあ?